

世界防災フォーラム 公式セッション

伝統仏教教団の青年僧による 復興支援活動

大正大学 地域構想研究所

BSR推進センター

助教 高瀬顕功

伝統仏教教団による復興支援活動

- 伝統教団による復興支援活動

- 救援物資の搬送、がれき撤去、炊き出し、カウンセラーの派遣、足湯、カフェの実施、物故者供養、犠牲者追善回向など

— 『中外日報』 (2011/9/8, 9/10, 9/17, 2012/9/8, 9/11, 9/13)

- 伝統教団による経済的支援

- 38宗派が救援・復興に関する費用を支出
- 支出費用の合計は約43億4000万円 (2012年10月時点)

— 日本仏教社会福祉学会・東日本震災対応プロジェクト委員会(2015) 『東日本大震災における日本仏教各宗派教団の取り組みに関するアンケート調査』

伝統仏教教団青年僧による復興支援活動

—浄土宗福島教区浜通り組浄土宗青年会（浜浄青）の活動—

浜浄青

浄土宗青年僧侶10名ほどで構成、東日本大震災以降、いわき市を中心に炊き出し、がれき撤去などを行う。後に教団のサポートを受け、カフェ活動、子ども向け保養プログラムを展開。

- ①炊き出し
- ②がれき撤去
- ③浜〇かふえ
- ④ふくしまっ子

Smileプロジェクト



いわき市の被害状況

- 沿岸部は津波で壊滅状態
- 内陸部は大きな被害はない
- 震災直後は原発事故の関係で物資不足に陥る
- 震災直後、市内には収容人数200名を超えるものから10名程度まで計47カ所の避難所が開設

(2011年4月6日時点)



人的被害 死亡者 467名
※死亡認定を受けた行方不明者37名を含む

建物被害 全壊 7,902棟
大規模半壊 9,253棟

いわき市災害対策本部 (2017/11/1 発表)

➤ 避難所ごとの各差や被災市民/非被災市民での生活差が生じる

浜浄青の復興支援活動

－応急対応期－

① 炊き出し

- 2011年4月～5月にかけて、計5日間、10カ所で開催。
- 統廃合により避難所が減少。さらに、地元商店の復旧が進むと避難所の食事は仕出し弁当が中心に。

② がれき撤去

- 2011年5月～7月、25回ほど作業に従事。
- いわき市災害救援ボランティアセンターに登録し、一市民として薄磯地区のがれき撤去作業に参加。



浜浄青の復興支援活動

－復旧・復興期－

③ 浜〇かふえ

- 原則毎週水曜日に仮設住宅や雇用促進住宅で開催するカフェ活動（2011年9月～）。
- 住民同士のコミュニケーション促進とニーズ把握の場。

④ ふくしまっ子Smileプロジェクト（ふくスマ）

- 子ども向け保養プログラム（2012年7月～）。
- 夏の海水浴（湖水浴）、冬のスキー、田植えや稲刈りなど野外での体験プログラムを実施。



応急対応期と復旧・復興期

いわき市では平成23年8月頃に転機を迎える

応急対応期

地震発生から1000時間（約40日）くらいまでの社会機能の回復に喫緊に取り組む時期。被災地の状況は日々めまぐるしく変わり、被災者はその対応に追われる。また、被災者は、自力で食料を調達することが難しく、避難所などでの生活を余儀なくされる。



炊き出し
がれき撤去

復旧・復興期

避難所で生活していた人たちは、仮設住宅での暮らしをへて、公営住宅に転居したり、別の地域へ移転したり、新しい生活を営む。応急対応期に行われるインフラの回復、避難所の開設などの迅速な復旧に比べ、生活上の変化が少なく被災者はストレスや閉塞感を感じる。



浜○かふえ
ふくスマ

まとめにかえてー青年僧による復興支援活動

- 被災地のフェーズにあわせた継続的支援
 - 現地のニーズにあわせ、物理的支援から心のケアへ
 - 宗教性は前面に出さず、求めに応じて教えを説く
- 当事者による支援活動
 - 支援活動をする僧侶の中には寺院や墓地が被害を受けた人も
 - 地域に根差した力によって信頼と継続を担保
- 教団内組織、教団外組織との連携
 - 教団内のネットワークを通じた人的、経済的支援の獲得
 - NPOや行政との情報共有や連携による支援活動の拡張